

**令和 6 年度 関東農政局補助事業評価委員会（再評価・事後評価）
技術検討会（第 1 回）現地調査 議事録**

開 催 日 令和 6 年 11 月 15 日（金）
場 所 両総多古支線地区（再評価/千葉県香取郡多古町、山武郡横芝光町）
現地調査 10:10～13:35
両総用水第二揚水機場会議室 技術検討会 13:45～15:30

[技術検討会の議事概要]

※冒頭、技術検討会設置要領の第 3 の 2「委員長は委員の互選により選出」に基づき、
日本大学生物資源科学部 長坂貞郎 教授を委員長に選出。

【議事】

長坂委員長） それでは、ただいま委員長をお引き受けさせていただきました。
議事進行にご協力の程よろしくお願いいたします。それでは、議事の
（１）～（４）について事務局から一括して説明をお願いします。

（１） 現地調査について「両総多古支線地区」

事 務 局） 再評価「両総多古支線地区」にて、用水路の整備状況を確認した。
施設管理者との意見交換において、施設の活用状況や地域の営農状
況、事業効果等について説明を受け質疑応答を行った。

（２） 情報公開について

事 務 局） 技術検討会の開催はプレスリリースを行った上で公開開催とし（今回
は委員の事前了承済み）、また技術検討会の資料、議事録、評価結果
をホームページで公表することについてよろしいでしょうか。
各 委 員） 異議なし。

（３） スケジュールについて

事 務 局） 本年度は、第 1 回技術検討会（現地調査）を本日開催、第 1 回技術検
討会（web）を 11 月 20 日に開催、第 2 回技術検討会を 12 月 27 日に開
催、第 3 回技術検討会を 1 月 17 日に開催し、3 月末に結果の公表を予
定しています。

（４） 令和 6 年度事業評価地区（再評価・事後評価）について

事 務 局） 再評価対象地区は、農地整備事業が 2 地区、水利施設整備事業が 5 地
区、防災事業が 7 地区の 3 事業種 14 地区です。
事後評価対象地区は農地整備事業が 1 地区、水利施設整備事業が 1 地
区の 2 事業種 2 地区です。

(5) 現地調査地区の事業評価の内容について

・再評価「両総多古支線地区（水利施設等保全高度化事業）」

長坂委員長） 両総多古支線地区の再評価の内容について、千葉県から説明をお願いします。

千葉県） 資料に基づき概要説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長） 現地での意見交換、ただいまの説明を踏まえ各委員より意見を頂き、関東農政局及び千葉県より回答をいただきたいと思います。
それでは、名簿順に李委員からお願いします。

(6) 質疑応答

李委員） 事業を実施する際、実施主体や担い手はどのように選定しているのか。

千葉県） 地域の農家の話し合いによって、地区内の大規模な農家が担うのか、集落営農とするのか等検討して選定していく。検討の結果、地区内では担い手がないということであれば、近隣地区の農家、企業の誘致といった段階を踏んで担い手の位置づけをしていくこととなります。

大澤委員） 国営両総事業及び水利施設保全高度化事業で機場を集約・再編したことにより、効率的な水の配分が可能となったということで、大変大きな効果が認められました。

残事業の既設管の処理については、撤去または充填のどちらで進める予定か。

千葉県） 残事業となっている既設の用水管は、宅地等の民地に入っており生垣の下にも通っていて、工法的に撤去が困難となっている。このため基本的には充填し、その場所で存置する形を考えています。

大澤委員） 確かに住宅等の上物があれば撤去が困難であり、充填という対策で進めていくこと、地権者との調整に時間がかかったというのも納得しました。

片岡委員） 国営両総地区及び両総多古支線地区では、老朽化している施設に対し、栗山川統合機場として集約・再編していったことは大変大きな成果だと感じた。特に近年、高齢化、担い手不足といった課題がある中で、水利施設の管理を担う方々への負担低減にもなっており、今後、基盤整備、農地集積を進め、効率的な農業生産を行っていくためにも必要なものだと思えました。

パイプラインを埋設した整備についても、地域住民の生活安全性向上について効果は高く、今後の地域農業を支えていく上でも重要な整備ができたと感じました。

受益面積 333ha に対して、令和 7 年に法人化する予定の担い手はどのくらいの面積を耕作することになるのか。

また、現在作付けされている「ねぎ」以外に今後導入可能な高収益作物があれば教えていただきたい。

千葉県) 333ha というのは両総多古支線地区全体の面積であり、そのうち今後着手予定の船越地区（区画整理予定地区）の面積が109.3haということで両総多古支線地区の内数としてとらえていただきたい。

船越地区では高収益作物として、ブロッコリー、キャベツ、レタス、にんじんの作付けが計画されている。これらの作物については近隣の地区でも栽培実績があり、実現性が高い作物だと考えられる。導入にあたっては試験栽培等を行い、定着できる作物を検討していくこととなる。

片岡委員) 今は船越地区を中心に法人化を予定しているということでしょうか。

千葉県) 令和7年に法人化を予定しているのは、船越地区の中での法人化となる。

片岡委員) 船越地区では地区内で個別に営農する農家もいるが、法人に委託する農家もいて、かなりの面積を法人が耕作していく予定ということでしょうか。

千葉県) 事業完了時は法人が92ha 耕作する計画となっており、大多数を法人が耕作する計画となっている。

長坂委員) 資料のP9の事業目的にある「国営両総事業」と後段の関連事業に記載されている「国営かんがい排水事業両総地区」は別事業なのか同事業なのか教えていただきたい。

関東農政局) 同事業ですので資料を修正いたします。

長坂委員) パイプライン化について、排水については側溝を設置して生活雑排水や道路排水を流すとのことだったが、現地調査を行った箇所ではそういった側溝がないタイプであった。この側溝の有無はどのように選択しているのでしょうか。

千葉県) 道路管理者と協議し決定している。

(7) 現地調査地区の事業評価の内容について（概要説明）

- ・ 事後評価「益子西部地区（農業競争力強化基盤整備事業）」
- ・ 事後評価「御勅使川沿岸地区（農業競争力強化基盤整備事業）」

以上